

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－ ワークショップ実施計画書

制作団体名	株式会社 BOX4628
公演団体名	沖縄伝統組踊「子の会」

内容

『観て！聞いて！触って！動いて！体験しよう』をキーワードに行います。

【1時限目】

全児童・生徒対象に、沖縄県の伝統芸能「琉球舞踊」「組踊」「エイサー」、3つの芸能をしっかりと体験し知ってもらうことが目的です。

①「琉球舞踊」のお話と実演、手踊りの体験

琉球舞踊でもっとも特徴的な手踊(ておど)り。ここでは3種類の手の使い方を、ご紹介し体験していただきます。「招(まね)き手」、「こねり手」、「返(かえ)し手」の技法(ぎほう)を用いて、「幸せをよびこみ、その幸せが皆さんにも訪れますように」という思いを込めて表現します。



手踊りの様子

②「組踊」のお話と実演、座り方の体験

組踊の演者が舞台上で座るシーンの時に、男性と女性では座り方が違います。どちらも体験していただきます。



③楽器の紹介

ワークショップでご紹介する唯一の楽器は三線です。沖縄県の芸能において、無くてはならない存在です。その構造や素材についてお話しし、音色を聞いていただきます。

④沖縄県八重山民謡「安里屋ユンタ」の体験 お囃子と、パーランクーを使っのエイサー体験をしていただきます。

まず歌三線の指導者による八重山民謡「安里屋ユンタ」を聞いていただきます。



お囃子の練習が出来たら、つづいてパーランクーとバチをみなさんにお配りし、エイサー体験です。エイサー体験していただく前に、パーランクーの構造やエイサーについてお話しします。

まず始めにパーランクーの基本の打ち方を伝えます、つづいて『安里屋ユンタ』の曲に振付けをした動きを練習します。繰り返し練習をしたら、歌三線の演奏に合わせてエイサー体験をしていただきます。児童・生徒のみなさんには必ずパーランクーの体験はしていただきます。

⑤質問コーナー・質疑応答（ワークショップの内容を振り返る）

多くの児童・生徒のみなさんが、初めて見たり、聞いたりすることが多いと思います。どんな質問でも感想でもかまいません、また逆に指導者からその地域についての質問もあります。児童・生徒みなさんと、指導者とのコミュニケーションを図ることでワークショップを振り返ってもらい、本公演への興味関心を高められるようおこないます。

【2時限目】

本公演の中で代表児童・生徒だけで、エイサー演舞の披露を行うための練習の時間です。本公演当日は地謡の生演奏に合わせて演舞を行います。

本公演の中で案内役から演舞披露の指示が出たら、体育館内の観賞場所から移動します。衣装の打掛けと帯を締め、パーランクーを持って準備が整ったら演舞発表の場所まで移動しましょう。演舞が終わったら挨拶をして退場するまでの流れを、みなさんだけで出来るように、一つ一つ確認しながら丁寧に練習していきます。

★ご担当の先生にご協力いただき、指導者の演舞、代表児童・生徒のみなさんの練習風景をビデオカメラで撮影していただきます。本公演当日までご無理の無い程度に時間を作ってください、撮影した映像を確認しながら練習をしていただきます。



エイサー演舞の練習

タイムスケジュール（標準）

ワークショップ開始の1時間前に学校到着し着替えと準備を行います。

1 時限目：全校児童・生徒の方々を対象に行います。

2 時限目：体験者代表による、演舞の練習時間になります。

終了後、着替えと片付けを行い、約 30 分程度で退校いたします。

派遣者数

主指導者：1 名

補助者：4 名

スタッフ：1 名

合計 6 名で学校に伺います。

学校における事前指導

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業一巡回公演事業一

本公演実施計画書

制作団体名	株式会社 BOX4628
公演団体名	沖縄伝統組踊「子の会」

演目

本公演演目： おきなわ伝統芸能 「琉球舞踊」 と 「組踊」

【プログラム】

第一部

- ① 琉球舞踊 上演作品 『四つ竹』 （舞踊の種類：女踊り）
・振付・監修：志田房子 国指定重要無形文化財 「琉球舞踊」保持者（総合認定）

- ② 琉球舞踊 『四つ竹』 の作品紹介とおはなし

- ③ 『沖縄ことばクイズ』 『楽器紹介』 『沖縄音楽ミニコンサート』

- ④ 『安里屋 ユンタ』 児童・生徒、エイサー演舞発表コーナー

打って！唄って！踊ろう！

第二部

- ⑤ 組踊 上演作品のあらすじとおはなし

- ⑥ 組踊 上演作品 『万歳敵討』 仇討物 （ユネスコ無形文化遺産）

・作者：田里朝直

・初演：1756年 尚穆王 冊封の宴で上演

・監修：宮城能鳳 国指定重要無形文化財 「組踊」保持者（総合認定）

派遣者数

出演者：１９名

スタッフ：６名

合計：２５名

タイムスケジュール（標準）

９：００ 学校到着 → 搬入 → 準備

※１０：１５～１１：４５の間に児童・生徒のリハーサル・出演者リハーサル

１２：００～ 昼食

１３：３０～ 本番

１５：００ 本番終了 → 片付け

１６：００ 退校

実施校への協力依頼人員

体育館が１階の場合は特にございません。２階以上の場合、搬入および搬出時のお手伝い
をできる範囲でご協力いただけましたら幸いです。

演目解説

【第一部】

① 琉球舞踊 上演作品『四つ竹』（舞踊の種類：女踊り）

★歌詞

う な な よ だけ な
打ち鳴らし 鳴らし 四つ竹は鳴らし

き ゆ う ざ ん あ し う り
今日や御座出でて遊ぶ嬉しや



琉球舞踊「四つ竹」上演シーン

★見どころ

沖縄の風、空気を最初に感じていただく、演目『四つ竹』で開演です。
竹で作られたカスタンネットのような鳴り物、四つ竹を両手に持ち、
それを「踊りこはでさ節」に乗せてカチカチと打ち鳴らしながら踊ります。

衣装は沖縄を代表する伝統的な 染色 技法 で染められた、艶やかな 紅型 衣装 を
身にまとい、頭に 花笠 を被り「四つ竹を打ち鳴らし鳴らして、今日はこのような
おめでたいお座敷で踊り遊ぶことの嬉しさよ」と優雅に華やかに踊ります。

琉球古典音楽「踊りこはでさ節」にのせて、舞踊家が舞台 下手 (正面左側)から登場
し、舞台中央で踊り、最後は再び下手(正面左側)に入って音楽が終わるという舞台上での
動き方は、伝統芸能の 能楽 (能・狂言)と同じ動きで、こういった能楽などの要素も取り入
れて構成されています。



紅型衣裳



四つ竹



花笠

★ポイント

ゆっくりとした 地謡 の演奏で、下手から登場する舞踊家の雰囲気、動き(所作)の美しさ
優雅さに驚くことでしょう。

また、初めて観る、聞く沖縄の舞踊や音楽は、最初はなかなか目にも耳にも入りにくいも
のです。そこでプロジェクターとスクリーンを利用して、タイトル、歌詞、現代語訳を映してよ
り分かりやすく上演いたします。

★振付・監修:志田 房子

国指定重要無形文化財「琉球舞踊」保持者(総合認定)

1987 年度 文化庁芸術祭 芸術祭賞受賞
1991 年度 文化庁芸術選奨 文部大臣賞受賞
2004 年度 沖縄県文化功労賞受賞
2019 年 平成 30 年度文化庁長官表彰
琉球舞踊 重踊流 初代宗家

② 琉球舞踊『四つ竹』の作品紹介とおはなし

案内役(司会)が舞台上に登場します、そして沖縄の方言であいさつと、自己紹介をします。

続いて、方言でのあいさつ、男の子は「ハイサイ」、女の子は「ハイタイ」とみなさんで声を出して言ってみましょう。

次に今事業「文化芸術による子供育成総合事業」の目的をお話します。

スクリーンの日本地図に現在公演を行っている都道府県と沖縄県の位置を示して距離的な感覚を移動時間でお伝えし、現在の沖縄県の様子や歴史についてお話します。

そして最初に鑑賞していただいた琉球舞踊「四つ竹」の作品についてお話します。



案内役

③ 「沖縄ことばクイズ」・「楽器紹介」・「沖縄音楽ミニコンサート」

「沖縄ことばクイズ」では、普段なじみのない沖縄県の方言を知っていただきます。

スクリーンに文字を映して、案内役がクイズ形式で進めるコーナーです。

児童・生徒のみなさんから地域の方言なども聞き、お互いに相手の文化を理解することを通して、コミュニケーションを図りながら、言葉の大切さをお話します。



スクリーンの文字

「楽器紹介」では、各楽器の演奏家に楽器の構造や音色を紹介してもらいます。

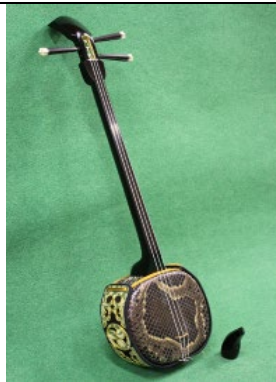
沖縄の方言で演奏家の皆さんのことを「地謡」(じうてー)といいます。

また沖縄の方言での楽器の呼び方も併せて紹介します。

各楽器それぞれの写真を、スクリーンに投影することで、遠くからでも見てもらえるようにいたします。



演奏家(地謡)のみなさん



三線(さんしん)



胡弓(こきゅう)



笛(ふえ)



太鼓(たいこ)



箏(こと)

「沖縄音楽ミニコンサート」では、沖縄の芸能には欠かすことのできない音楽を、「琉球古典音楽」「沖縄民謡」「現代音楽」と大きく3つに分けて、各ジャンルから1曲ずつ演奏します。

★見どころ

沖縄音楽の大きな特徴は、三線の演奏者が、唄も担当することです。他の伝統芸能、能楽(能・狂言)では地謡、歌舞伎では長唄は唄方、常磐津、清元、義太夫は浄瑠璃方として分かれていて、楽器の演奏をしながら唄ったり語ったりすることはありません。

④ 児童・生徒、エイサー演舞 発表コーナー 打って！唄って！踊ろう！

演舞曲『安里屋ユンタ』（沖縄県八重山民謡）

※児童生徒の公演への参加方法に記載致しました。

【第二部】

⑤ 組踊 上演作品『万歳敵討』 仇討物

★あらすじ

むかし、首里に高平良御鎖^{しゅり たかでーらうざし さしめすば}という鎖之側^{さしめすば}の位^{ごうまん}になった、とても傲慢な人がいました。

高平良御鎖は^{おおじゃな ひや}大謝名^{おおじゃな}の比屋^{ひや}という人が飼っていた、とてもよく走る立派な名馬を欲しがっていました。高平良御鎖はその思いを大謝名の比屋に相談して譲ってくれるようにと頼みましたが、断られてしまったのです。そのことを恨みに思い、大謝名の比屋を殺してしまいます。殺された大謝名の比屋には、男の2人兄弟がいました。

長男の名は^{じゃなぬし}謝名の子^{じゃなぬし}、次男の名は^{ちうん}慶雲^{ちうん}と言います、父を殺された二人の兄弟は、旅芸人に姿を変えて仇討ちの機会を狙っています・・・さて最後は、どのようなのでしょうか。

★見どころ

作品の終盤、謝名兄弟が敵意を剥き出しにして高平良御鎖に迫ります、その気迫に満ちた息の合った舞踊と所作(動き)、それを必死にかわそうとする高平良御鎖、いよいよ謝名兄弟が刀を抜き高平良御鎖に襲い掛かる緊迫したシーンとなります。



組踊『万歳敵討』上演シーン

★ポイント

字幕的な役割として、プロジェクターとスクリーンを利用して、全てのセリフをスクリーンに映して、物語を分かりやすく上演いたします。

組踊の『万歳敵討』は、沖縄伝統芸能の要素が全て入っている作品です、その要素とは①琉球古典語、②琉球古典音楽、③琉球古典舞踊となります。

★監修: 宮城能鳳

国指定重要無形文化財「組踊」保持者(総合認定)

1986 年 国指定重要無形文化財「組踊」保持者(総合認定)

1996 年 沖縄県指定無形文化財「沖縄伝統舞踊」保持者(総合認定)

2006 年 国指定重要無形文化財「組踊立方」保持者(各個認定)

2009 年 国指定重要無形文化財「琉球舞踊」保持者(総合認定)

2018 年 日本芸術院賞受賞

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

④ 児童・生徒、エイサー演舞 発表コーナー 打って！唄って！踊ろう！

演舞曲『安里屋^{あさとや} ユンタ^{やえやまみんよう}』（沖縄県 八重山 民謡）

代表児童・生徒の皆さんが『安里屋ユンタ』の曲に合わせて、エイサー演舞の発表を致します。地謡の生演奏に合わせて、児童・生徒のみなさんだけで舞台上、体育館内に広がっておこないます。



演舞発表コーナーの様子

代表児童・生徒のみなさんは下手側の舞台袖のパネルの陰で準備をします、打掛け(衣装)を着け、パーランクーとバチを手に持ち、準備が整ったら地謡の演奏に合わせて入場します、いよいよ演舞の発表です、地謡の生演奏『安里屋ユンタ』の曲に合わせて演舞を行います。



衣装の打掛けと帯



パーランクーとバチ

児童生徒とのふれあい

プログラムに、「沖縄ことばあそび」（方言）のコーナーがあります。
案内役が積極的に児童・生徒のみなさんと言葉を交わしてコーナーを進めます。

終演後に学校側からのご意向があれば、伝統的な琉球舞踊・組踊の衣装を身に着けた出演者の皆さんとの記念撮影を行います。
終演後に代表者からの感想を聞いております。

感想文などがある場合は、出演者の皆さんに読んでいただいております。

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

実施計画書

制作団体名	株式会社BOX4628	団体ID
公演団体名	沖縄伝統組踊「子の会」	H104

[illegible]

